ろうさい病院便り

第71号

令和8年9月1日号広報ちはら台へ掲載しました

「顔が動かしにくい…」
それは顔面神経麻痺かもしれません

千葉ろうさい病院
形成外科部長　吉良　智恵

ある日突然、片方のまぶたが閉じない、口角が下がって水がこぼれるといった症状が現れる「顔面神経麻痺」。多くはウイルス感染などが原因で、突然発症するため強い不安を感じる方も少なくありません。

この病気は、発症直後の「早期治療」が何よりも重要です。当院では耳鼻咽喉科や神経内科などと連携し、まずは急性期の薬物療法を行います。しかし、初期治療を行っても動きが十分にもとに戻らなかったり、数ヶ月後に「目が閉じると口が動く」といった意図しない異常運動（共同運動）や、顔のこわばりなどの後遺症に悩まされたりするケースがあります。

当院の形成外科では、麻痺が残ってしまったお顔に対して、見た目と機能の両面から改善を図る専門的な治療を行っています。ボツリヌス療法による筋肉のこわばり緩和や、左右の対称性を整えリフトアップを取り戻す静的再建手術など、患者様の状態やご希望に合わせた幅広い選択肢をご提案いたします。

当院は労災病院として、お仕事や日常生活への早期復帰を医療面からバックアップする体制を整えています。

「もう治らない」と諦める必要はありません。

お顔の動きや非対称でお悩みの方は、ぜひ一度、形成外科へ受診してみてはいかがでしょうか。